



JAPAN HERITAGE

日本遺産

さいくうあと通信

発行 明和町 斎宮跡・文化観光課
(明和町大字馬之上 945 番地)
電話：0596-52-7126 FAX：0596-52-7133
E-mail：saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp

新しい指定文化財の紹介

もくぞうあみだによらいりゅうぞう ～木造阿弥陀如来立像～

令和 4 年 2 月 25 日に開催された教育委員会において、大淀地区(東区)の長光寺の本尊である「木造阿弥陀如来立像」が新たに町指定文化財(有形文化財 彫刻)に指定されました。像はその特徴から平安時代後期の作と考えられ、町内の中でも制作時期の古い点が評価されました。

◎特徴

- ・時代：平安時代(12世紀)
- ・所有者：宗教法人長光寺(大淀)
- ・法量：像高 100.0cm(3尺3寸)
- ・平安時代後期から鎌倉時代にかけて流行する「三尺阿弥陀」
- ・平成 18 年に本堂再建に合わせて補修を受けている
- ・寄木造りか一木割貫造りの可能性がある
- ・「墨染めの衣の阿弥陀」との伝承がある



さんじゃくあみだ



阿弥陀如来とは…

アミターバ(無量光仏)、アミユターユス(無量寿仏)が原名。無量・無限を意味するサンスクリット語の「アミタ」の音写が、阿弥陀です。無限の慈悲の光を放ち、無限の寿命を持つ仏で、西方極楽浄土の教主です。阿弥陀如来に帰依する全ての人を解脱に導き、極楽浄土へと救う仏様です。

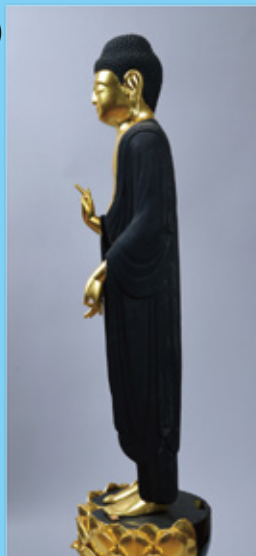
<長光寺>(浄土宗・山号：大淀山)

開山や創立年など詳しい歴史は不明な点が多いですが、『明和町史』(旧版)によれば、旧寺地は式内社竹大与杼神社の東隣だったとの一説を紹介しています。また、境内の地藏堂に安置されている地藏菩薩は、『大淀名勝誌』には行基の作と紹介しており、この仏像も地区の人々から深い信仰を受けています。



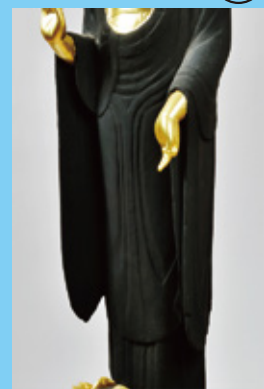
<時期決定のポイント！>

①



①側面から見て、胸部
に対して腹部がふっ
くらとしている

②



②浅めに彫り出された衣
文等の表現

齋 宮 と 月

史跡齋宮跡は、広大な公園となっており、空を遮るものがあまりないため、月夜を楽しめる絶好の場所になっています。今回は、齋宮や齋王が月をどのように捉えていたのかご紹介したいと思います。

古代において、夜は恋を深める時でした。齋宮が舞台となった古代の小説『伊勢物語』第69段には、齋王ありわらのなりひらと在原業平のロマンティックな一夜が出てきますが、その時は朧月夜おほろつきよで、齋王が忍んで業平の寝室に行くのに好都合だったようです。有名な『源氏物語』でも朧月夜が出てきます。

ほかにも、齋宮に出ている月について、規子齋王のりこ (在任期間975～984) が詠まれた歌があるので、ご紹介します。これは齋宮に赴任してきた規子齋王が、梅雨の時期に出た珍しい月を詠んだものです。

ながめつる 空はあらぬか たまさかに くさばのうへに うつる月かけ

(今までながめていた長雨の空がうそのように空が晴れて、草葉の水滴の上に月の光がうつっています。)

規子齋王

また、平安時代にはすでに月見の習慣があり、いわゆる中秋の名月を見る観月の宴があったと考えられており、齋宮でも催されていたかもしれません。毎年いつきのみや歴史体験館で実施されている「いつきのみや観月会」は、これをモチーフにしています。

先ほどの規子齋王は、唯一母娘ともに齋王となった人で、娘である規子齋王に付き添って、再び伊勢によしと来られた母のさいくうにようご徽子女王は、歌の名手で「齋宮女御」としても有名です。

2人が齋宮で詠んだ歌は多く、月の歌もあるのでご紹介します。

旧暦8月の夜に2人で琴を合奏しているときに詠みあった歌として、

虫の音も かきなすことも もろごえに みにうらもなき 月をさえみる

(虫の音も琴の音も一緒になって弾いています。わたしは憂いがなく澄み切った心で、澄み切った月を見ています。)

徽子元齋王

月影の さやけきほどに なく虫は 琴の音にこそ たがはざりけれ

(月が冴えて明るい時に鳴く虫の音は、琴の音にこそ調べが合うことですね。)

規子齋王

があり、こちらは夜を明るく照らす綺麗な月がイメージされます。

約1050年前にこれらの歌が詠まれた時、齋王の宮殿は現在の竹神社近くにあったと考えられています。毎月の満月の夜には、「満月参り」や「満月屋台」も実施されています。ぜひ満月の夜に訪れてみてください。朧月夜には古代のロマンも感じられると思います。

参考文献:『齋宮女御集注釈』塙書房発行 1981



いつきのみや観月会の満月と齋宮